

第4次

いーとこ（いなべ・東員・菰野）

定住自立圏共生ビジョン

いなべ市・東員町・菰野町

令和7年度～令和11年度

目次

第1章 定住自立圏及び市町の名称

1	定住自立圏の名称	1
2	圏域を構成する市町の名称	1
3	圏域を構成する市町の概要	2

第2章 定住自立圏構想の概要及び定住自立圏共生ビジョンの目的・期間

1	定住自立圏構想の概要	4
2	定住自立圏共生ビジョンの目的	4
3	定住自立圏共生ビジョンの期間	4

第3章 定住自立圏の現状

1	定住自立圏の地理的現状	5
2	圏域の状況	
	(1) 面積	6
	(2) 人口推移	6
	(3) 年齢3区分人口推移	7
	(4) 圏域の人口分布図	8
	(5) 人口動態	8
	(6) 昼夜間人口比率	9
	ア. いなべ市	
	イ. 東員町	
	ウ. 菰野町	
	(7) 通学・通勤	10
	(8) 医療	11
	ア. 医療施設数・薬局数	
	イ. 医療関係者数	
	(9) 福祉	12
	(10) 公共施設数	13
	(11) 産業	
	ア. 第1次産業	14
	イ. 第2次産業	16
	ウ. 第3次産業	17

第4章 定住自立圏の将来像

1	定住自立圏の目指すべき将来像	18
2	圏域の将来人口目標	18
3	圏域の可能性	20

第1章

定住自立圏及び市町の名称

1 定住自立圏の名称

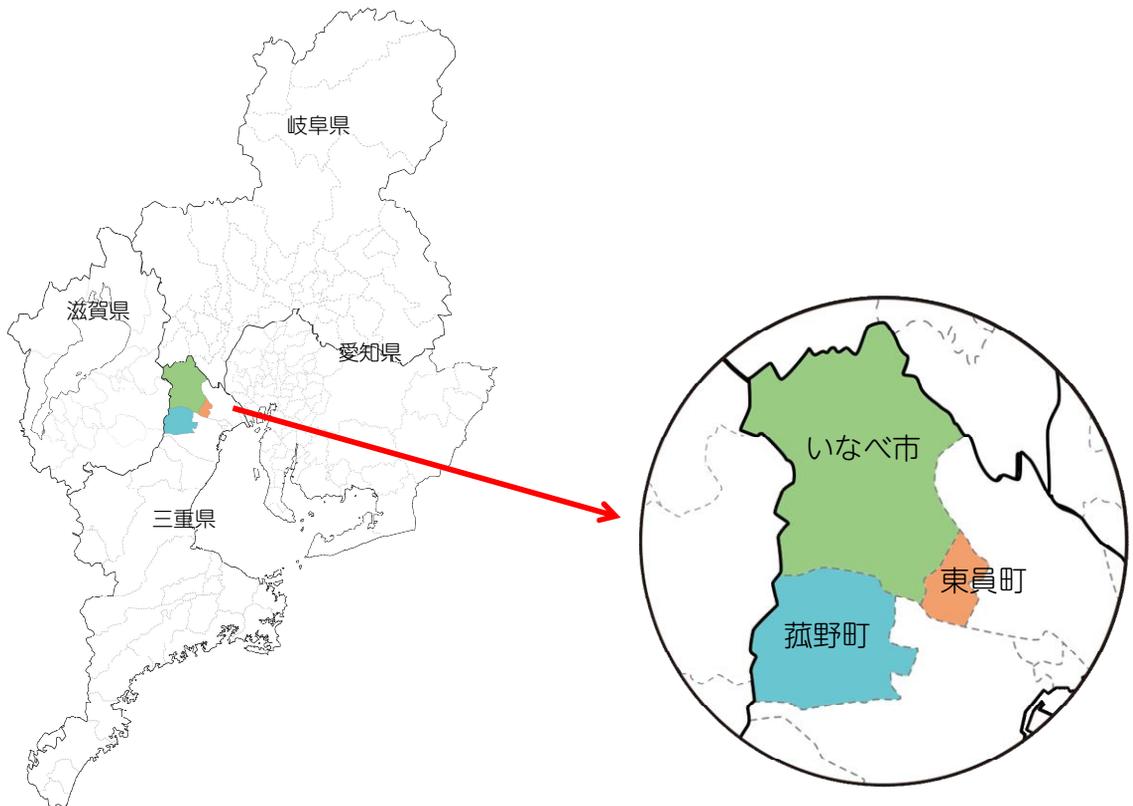
いーとこ（いなべ・東員・菰野）定住自立圏

いなべ市・東員（とういん）町・菰野（こもの）町の頭文字から圏域名称としました。

い・と・こ → いとこ関係のような仲良さ
 +
 いいところ → 住みやすい地域
 = いーとこ

2 圏域を構成する市町の名称

いなべ市、東員町、菰野町



3 圏域を構成する市町の概要

いなべ市	所在地	URL
	三重県いなべ市北勢町阿下喜31番地	https://www.city.inabe.mie.jp/
	    <p>庁舎とにぎわいの森 Nordisk Hygge Circles UGAKEI 梅林公園 ツアー・オブ・ジャパン</p>	
概要	<p>いなべ市は、平成15年12月、旧北勢町、旧員弁町、旧大安町、旧藤原町が合併して誕生しました。北部は岐阜県、西部は滋賀県と隣接している三重県最北端の市で、西に鈴鹿山脈の頂きが広がり、中央には員弁川が流れ、豊かな緑に包まれた住みやすく活力のあるまちです。昭和50年代以降は、自動車関連企業が進出し活力あるまちとして発展を続けています。</p> <p>平成27年から国内最大級の自転車レース「ツアー・オブ・ジャパン」を開催し、サイクルツーリズムの取組を行っています。令和元年には新庁舎とまちづくりの拠点施設「にぎわいの森」を建設し、全国で6番目にフェアトレードタウンにも認定され、令和2年には、SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業に選定されました。令和8年度には東海環状自動車道が全線開通するため、更なる発展が期待されます。</p>	
PR SPOT	<p>藤原岳、竜ヶ岳、にぎわいの森、青川峡キャンプパーク、やまてらす、Nordisk Hygge Circles UGAKEI、いなべ市農業公園(梅林公園)</p>	

東員町	所在地	URL
	三重県員弁郡東員町大字山田1600番地	http://www.town.toin.lg.jp/
	    <p>中部公園 こども歌舞伎 コスモス畑 LA・PITA東員スタジアム</p>	
概要	<p>東員町は、西部にいなべ市、東部に桑名市、南部に四日市市が隣接し、東西5キロメートル南北7.3km、面積22.68のコンパクトな町です。名古屋から30km圏内に位置し、名古屋駅まで車で40分、電車で50分ほどです。町の中央を横断するローカル鉄道の三岐鉄道北勢線と三重交通のバスがいなべ市と桑名市を繋いでいます。町の中心エリアには14.5haの大きなシンボルパーク中部公園やサッカー観戦ができるスタジアム、こども歌舞伎やミュージカルなど文化イベントが楽しめる総合文化センターがあります。秋には、このエリアの転作田を利用したコスモス畑が人気で町内外から多くの人を訪れます。</p>	
PR SPOT	<p>中部公園、LA・PITA東員スタジアム、コスモス畑</p>	

	所在地	URL
菰野町	三重県三重郡菰野町大字潤田1250番地	https://www2.town.komono.mie.jp/
	 御在所ロープウェイ  湯の山温泉僧兵まつり  足湯列車「つどい」  ONSENガストロノミーウォーキング	
概要	<p>菰野町は、人口41,805人（令和5年3月31日）、面積22.68km²西は滋賀県、北はいなべ市、東と南は四日市市と接しています。平成31年に新名神高速道路の三重県内区間が全通し、町内にインターチェンジが設置されました。町の南北軸の道路として国道306号と県道140号（ミルク道路）が、東西軸の道路として国道477号、鉄道は近鉄湯の山線が通り、菰野町と近隣市町を結んでいます。</p> <p>鈴鹿山脈の主峰である御在所岳とその麓の湯の山温泉など、当町へ年間約250万人（平成30年）の観光客が訪れます。全国で唯一走行する列車内で天然温泉の足湯に入浴できる足湯列車「つどい」を近畿日本鉄道と共同運行したり、湯の山温泉街を巡りながら、当町の豊かな食材と温泉をたのしむことができる「ONSENガストロノミーウォーキング」など、新たな観光の取り組みを進めています。</p>	
PR SPOT	<p>御在所岳、御在所ロープウェイ、湯の山温泉、フォレストアドベンチャー湯の山、アクアイグニス、パラミタミュージアム、道の駅菰野ふるさと館、八風キャンプ場、朝明キャンプ場、尾高高原キャンプ場、鳥居道山キャンプ場、福王神社、五百羅漢、尾高観音</p>	

第2章

定住自立圏構想の概要及び 定住自立圏共生ビジョンの目的・期間

1 定住自立圏構想の概要

わが国は、総人口の減少及び少子高齢化の進行が見込まれています。それは、三大都市圏でも同様ですが、特に地方においては、大幅な人口減少と急速な少子高齢化が見込まれています。

このような状況をふまえ、地方圏において安心して暮らせる地域を各地に形成し、地方圏から三大都市圏への人口流出を食い止めるとともに、三大都市圏の住民にもそれぞれのライフステージやライフスタイルに応じた居住の選択肢を提供し、地方圏への人の流れを創出することが求められています。

市町村の主体的取組として「中心市」の都市機能と「近隣市町村」の農林水産業、自然環境、歴史、文化など、それぞれの魅力を活用して、NPOや企業といった民間の担い手を含め、相互に役割分担し、連携・協力することにより、地域住民のいのちと暮らしを守るため圏域全体で必要な生活機能を確保し、地方圏への人口定住を促進する政策です。

定住自立圏構想は平成21年4月から全国展開し、現在、各地で取り組みが進んでいます。

2 定住自立圏共生ビジョンの目的

本共生ビジョンは、定住に必要な都市機能及び生活機能の確保・充実を図るとともに、自立に必要な経済基盤の整備を促進することにより、魅力あふれる定住自立圏を形成するため、中長期的な観点からいーとこ（いなべ・東員・菰野）定住自立圏が目指す将来像及びその実現のために必要な具体的な取組を示すものです。

3 定住自立圏共生ビジョンの期間

本共生ビジョンで示す将来像の実現に向けた具体的な取組の計画期間は、令和7年度から11年度までの5年間とし、毎年度所要の見直しを行います。

第3章

定住自立圏の現状

1 定住自立圏の地理的状況

本圏域は、三重県北部に位置し、鈴鹿山脈と養老山地の間に流れる員弁川、朝明川、三滝川等の上中流域にあって、豊かな自然と緑あふれる田園地帯が広がる地域です。

古くから近鉄線、三岐線など鉄道路線が敷設され、旅客のみならず産業利用も進んでいます。

また、平成23年の国道421号石樽トンネル開通後、平成28年に東員IC、平成31年に菰野ICと大安ICの供用が開始され、令和9年には東海環状自動車道が全線開通予定で、東海圏と関西圏の結節点に位置することから、自動車関連企業をはじめ、様々な企業が立地しています。



2 圏域の状況

(1) 面積

市・町	面積	圏域合計
いなべ市	219.83 km ²	349.79 km ²
東員町	22.68 km ²	
菰野町	107.28 km ²	

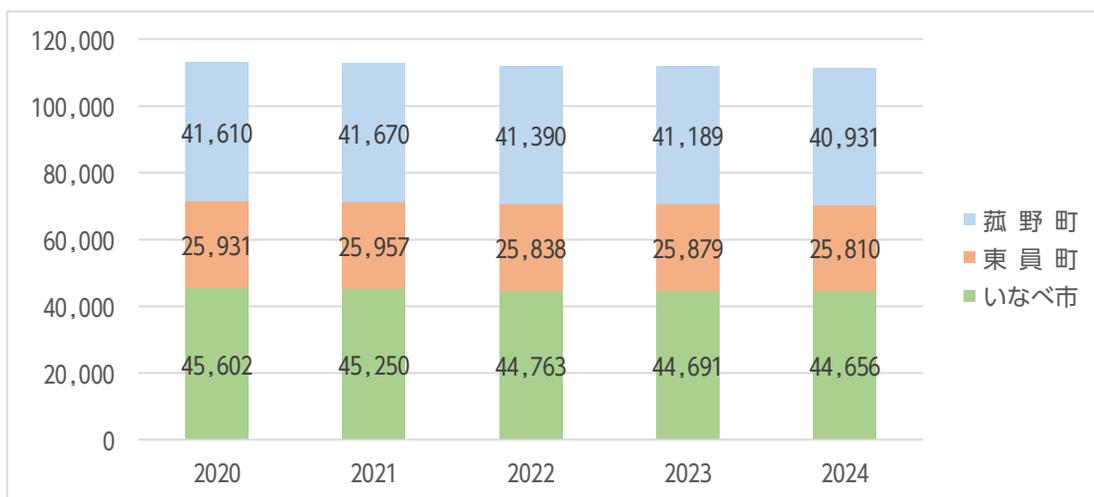
[出典：各市町ホームページ]

(2) 人口推移

[単位：人]

年	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
いなべ市	45,602	45,250	44,763	44,691	44,656
東員町	25,931	25,957	25,838	25,879	25,810
菰野町	41,610	41,670	41,390	41,189	40,931
合計	113,143	112,877	111,991	111,759	111,397

[出典：各市町ホームページ（住民基本台帳人口）（※基準日：いなべ市4月1日、東員町・菰野町3月31日）]



(3) 年齢3区分人口推移

【いなべ市】

[単位：人]

年	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)
年少人口	8,144	7,832	7,286	6,834	6,345	5,856	5,485
生産年齢人口	28,841	29,795	29,428	29,951	29,043	27,858	27,143
老年人口	6,897	8,118	8,916	9,661	10,282	11,575	12,345

【東員町】

[単位：人]

年	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)
年少人口	6,246	5,065	3,920	3,397	3,373	3,374	3,520
生産年齢人口	16,984	18,302	18,904	18,307	16,946	14,704	14,253
老年人口	2,217	2,851	3,481	4,171	5,289	6,967	8,011

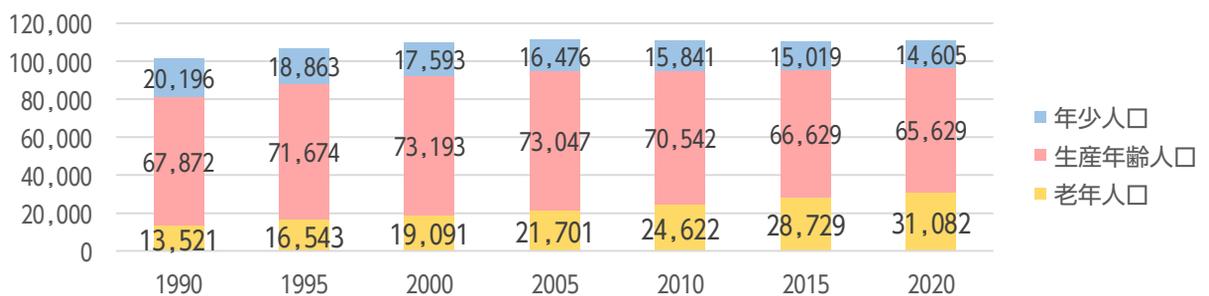
【菰野町】

[単位：人]

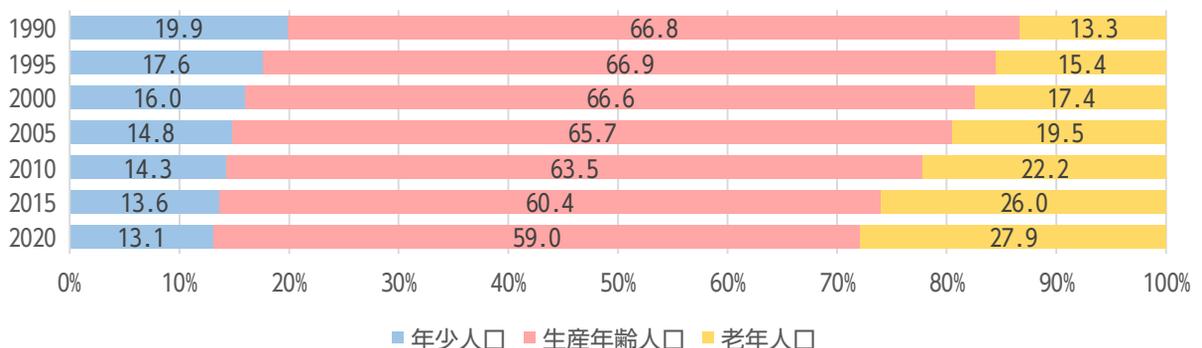
年	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)
年少人口	5,806	5,966	6,387	6,245	6,123	5,789	5,600
生産年齢人口	22,047	23,577	24,861	24,789	24,553	24,067	24,233
老年人口	4,407	5,574	6,694	7,869	9,051	10,187	10,726

■年少人口：0～14歳 ■生産年齢人口：15～64歳 ■老年人口：65歳以上 [出典：総務省統計局（国勢調査）]

【圏域の年齢3区分人口推移】

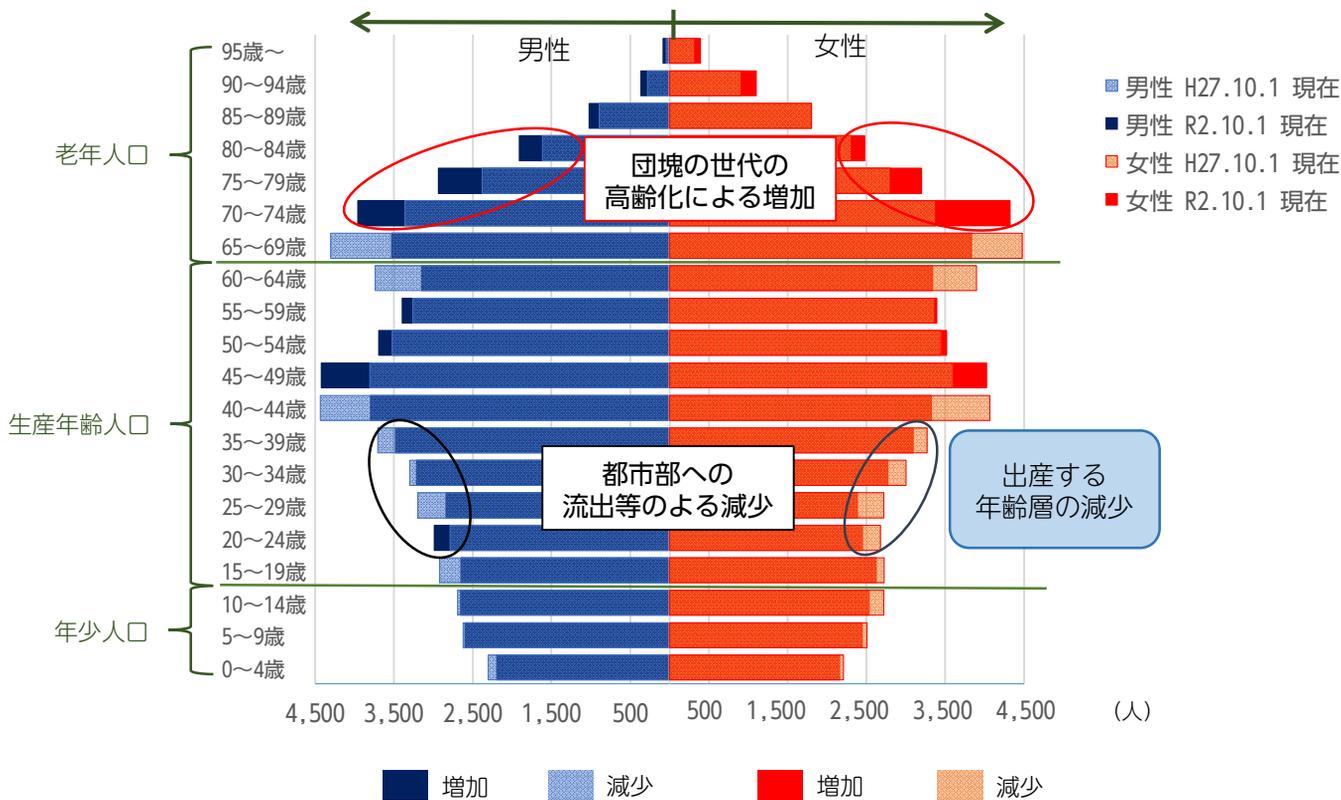


【圏域の年齢3区分人口割合の推移】



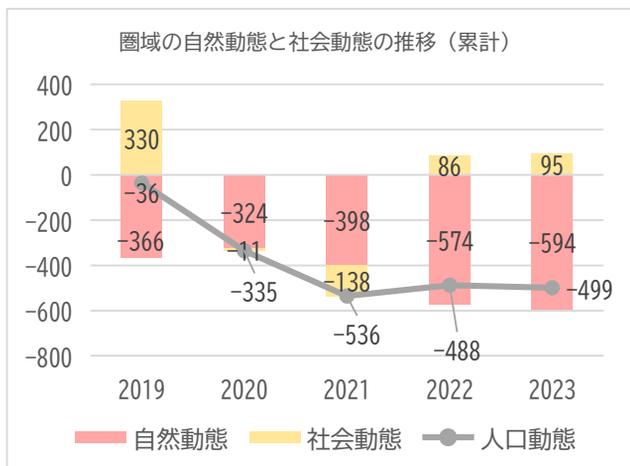
(4) 圏域の人口分布図

定住自立圏の圏域におけるそれぞれの区分ごとに比較
 ※対象年度は平成27年度と令和2年度（基準日：各年の10月1日）



[参考：平成27年・令和2年国勢調査]

(5) 人口動態



- ①自然動態
一貫してマイナスで推移しています。
- ②社会動態
2020年度・2021年度はコロナウイルス感染症の影響により、マイナスとなりました。
※社会動態は景気に左右されます。

【圏域の自然動態と社会動態（単年度）】

年区分	自然動態	社会動態	人口動態
2019	-366	330	-36
2020	-324	-11	-335
2021	-398	-138	-536
2022	-574	86	-488
2023	-594	95	-499

[参考：住民基本台帳（※基準日10月1日）]

「人口動態」

- ア. 自然動態・・・一定の期間における出生・死亡に伴う人口の動きを示します。
- イ. 社会動態・・・一定の期間における転入・転出に伴う人口の動きを示します。

(6) 昼夜間人口比率

(ア) いなべ市

[単位：人]

年	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)
昼間人口	41,286	45,101	45,219	49,070	48,517	49,708	49,654
夜間人口	43,882	45,745	45,630	46,446	45,684	45,815	44,973
比率 (%)	94.1	98.6	99.1	105.6	106.2	108.5	110.4

(イ) 東員町

[単位：人]

年	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)
昼間人口	18,845	19,192	19,729	19,880	20,537	22,030	22,435
夜間人口	25,447	26,218	26,305	25,897	25,661	25,344	25,784
比率 (%)	74.1	73.2	75.0	76.8	80.0	86.9	87.0

(ウ) 菰野町

[単位：人]

年	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)
昼間人口	26,512	29,527	32,086	33,566	34,216	34,270	34,317
夜間人口	32,260	35,117	37,972	38,986	39,978	40,210	40,559
比率 (%)	82.2	84.1	84.5	86.3	85.6	85.2	84.6

[出典：総務省統計局（国勢調査）]

(7) 通勤・通学

[単位：人]

市・町	総数 (夜間人口)	従業も通学も していない
いなべ市	44,973	13,384
東員町	25,784	8,998
菰野町	40,559	12,538

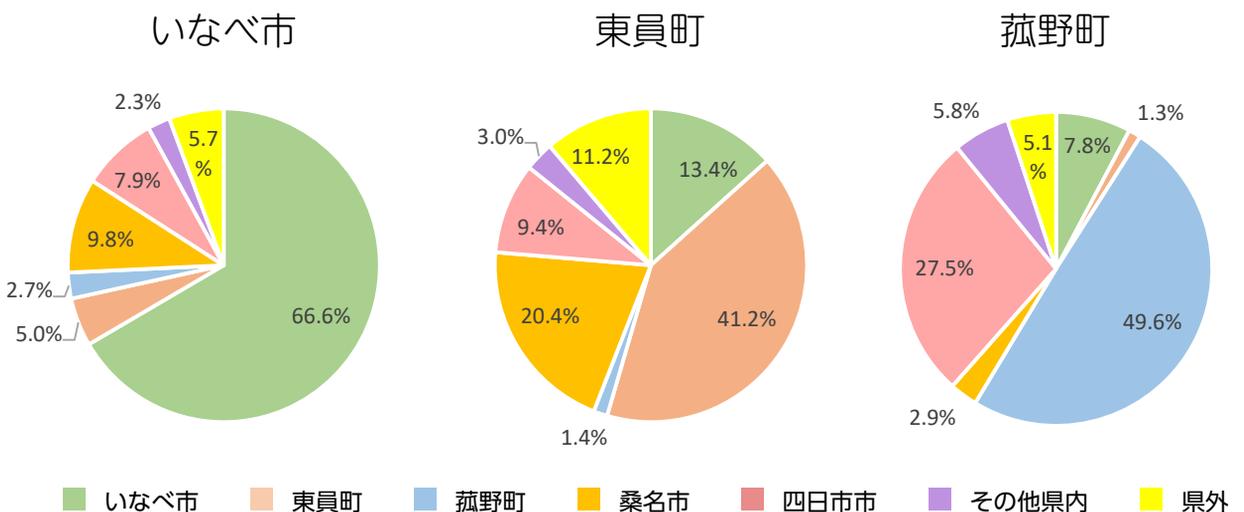
市・町	自市町			他市区町村			
		自宅で従業	自宅外の自市町 で従業・通学		県内他市町	他県に 従業・通学	不詳 外国
いなべ市	18,671	1,972	16,699	9,364	7,773	1,355	236
東員町	6,253	775	5,478	8,941	7,233	1,565	143
菰野町	12,048	1,724	10,324	12,228	10,995	1,009	224

通勤・通学先の割合

[単位：%]

市・町	いなべ市	東員町	菰野町	桑名市	四日市市	その他 (県内)	その他 (県外)
いなべ市	66.6	5.0	2.7	9.8	7.9	2.3	5.7
東員町	13.4	41.2	1.4	20.4	9.4	3.0	11.2
菰野町	7.8	1.3	49.6	2.9	27.5	5.8	5.1

[出典：総務省統計局（令和2年国勢調査）]



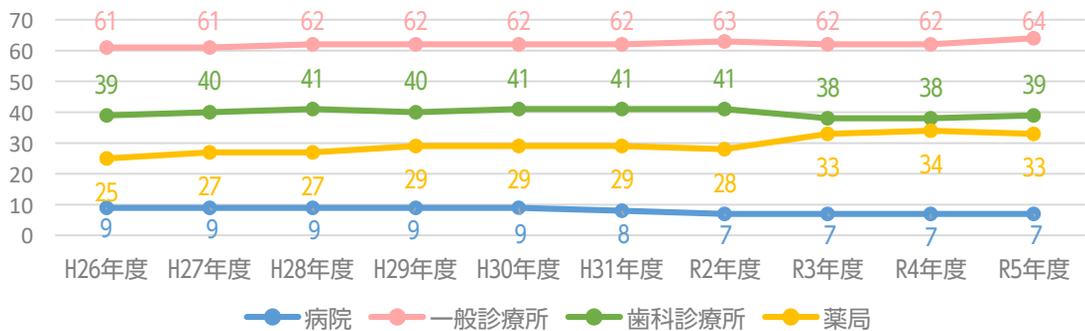
(8) 医療

(ア) 医療施設数・薬局数

[単位：院、所]

市・町	病院	一般診療所	歯科診療所	薬局
いなべ市	4	24	16	13
東員町	2	17	10	9
菰野町	1	23	13	11
合計	7	64	39	33

[出典：三重県戦略企画部統計課（令和5年刊三重県統計書）]

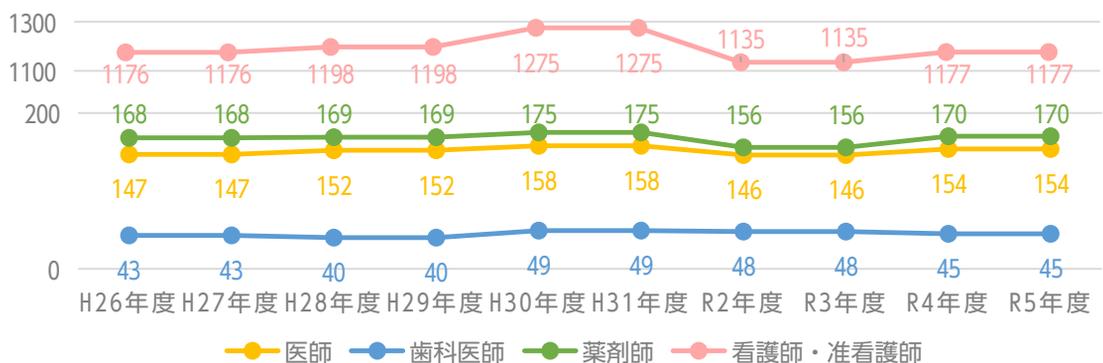


(イ) 医療関係者数

[単位：人]

市・町	医師	歯科医師	薬剤師	看護師 准看護師
いなべ市	76	17	72	500
東員町	28	12	44	318
菰野町	50	16	54	359
合計	154	45	170	1,177

[出典：三重県戦略企画部統計課（令和5年刊三重県統計書）]



(9) 福祉

[単位：所]

分類	施設の種類	いなべ市	東員町	菰野町
生活保護施設	救護施設	—	—	2
児童福祉施設	助産施設	1	—	—
	保育所	13	6	6
	認定こども園	—	—	4
老人福祉施設	養護老人ホーム	1	—	1
	特別養護老人ホーム	4	2	4
	軽費老人ホーム・ケアハウス	—	1	1
	老人福祉センター	1	—	1
	有料老人ホーム	6	6	—
	介護老人保健施設	2	—	3
	訪問看護ステーション	3	3	4
	認知症疾患医療センター	—	1	—
	認知症対応型共同生活介護	4	2	1
障害者福祉施設	生活介護（障害者支援施設）	—	—	2
	施設入所支援	—	—	2
	生活介護（障害者総合支援）	5	1	4
	共同生活援助	7	4	2
	自立訓練（生活訓練）	2	—	—
	就労移行支援	1	—	—
	就労継続支援（A型）	1	1	2
	就労継続支援（B型）	7	1	3
障害児通所支援施設	児童発達支援	2	4	5
	放課後等デイサービス	5	6	8

[出典：三重県健康福祉部福祉監査課（令和5年三重県社会福祉施設等名簿）]

(10) 公共施設数

[単位：所]

分類	施設の種類		いなべ市	東員町	菰野町	
文化施設	公民館・類似施設	中央館	2	1	1	
		地区館	—	—	5	
		分館	—	1	1	
	図書館		4	1	1	
スポーツ施設	体育館		3	1	2	
	運動広場		8	2	2	
	道場	柔道場	2	—	—	
		剣道場	1	1	—	
	野球場		3	2	2	
	コート	テニスコート	2	2	1	
		ゲートボール場	1	—	—	
	プール	屋内		—	—	1
		屋外	25m	1	—	—
			50m	—	—	—
	陸上競技場		—	1	1	
トレーニング場		1	—	—		

施設名称	蔵書数 (冊)	貸出登録者数 (人)	貸出冊数 (冊)
いなべ市北勢図書館	64,898	6,236	62,292
いなべ市員弁図書館	17,186	3,154	29,675
いなべ市大安図書館	44,199	6,916	52,847
いなべ市藤原図書館	16,773	2,604	24,785
東員町立図書館	110,250	36,390	184,624
菰野町図書館	179,255	38,262	336,515

[出典：三重県戦略企画部統計課（令和5年刊三重県統計書）]

(11) 産業

(ア) 第1次産業

【 いなべ市 】

[単位：戸]

年	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)
自給的農家	1,264	1,105	995	974	1,010	1,025	888
販売農家	3,450	4,089	2,453	1,643	1,314	961	650
専業農家	156	255	180	118	162	157	-
兼業農家	3,294	3,834	2,273	1,525	1,152	804	-
第1種兼業農家	100	146	63	122	90	362	-
第2種兼業農家	3,194	3,688	2,210	1,403	1,062	442	-
総農家数	4,714	5,194	3,448	2,617	2,324	1,986	1,538

【 東員町 】

[単位：戸]

年	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)
自給的農家	247	219	192	268	233	186	175
販売農家	866	942	611	462	355	231	130
専業農家	22	51	35	49	49	35	-
兼業農家	844	891	576	413	306	196	-
第1種兼業農家	13	49	40	39	14	3	-
第2種兼業農家	831	842	536	374	292	193	-
総農家数	1,113	1,161	803	730	588	417	305

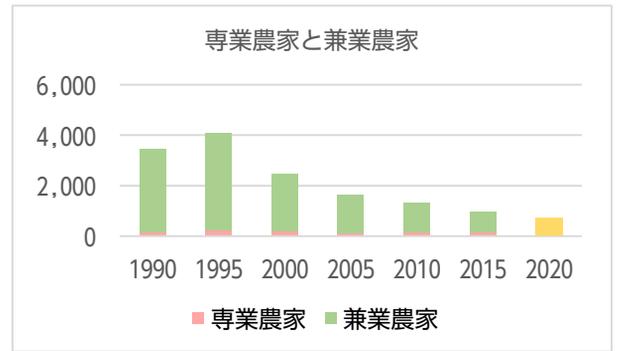
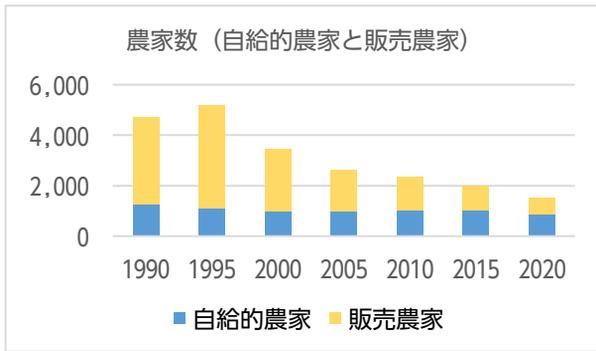
【 菰野町 】

[単位：戸]

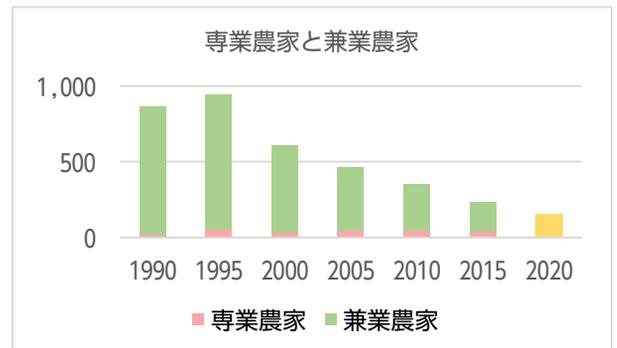
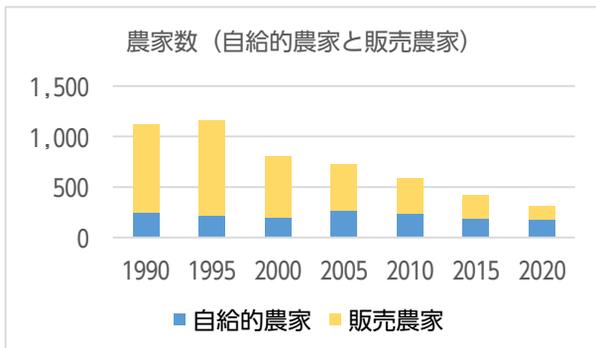
年	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)
自給的農家	347	294	300	383	417	393	349
販売農家	1,822	1,853	1,359	1,036	762	575	408
専業農家	82	123	119	131	104	106	-
兼業農家	1,740	1,730	1,240	905	658	469	-
第1種兼業農家	69	126	60	80	57	226	-
第2種兼業農家	1,671	1,604	1,180	825	601	243	-
総農家数	2,169	2,147	1,659	1,419	1,179	968	757

[出典：農林水産省（農林業センサス）]

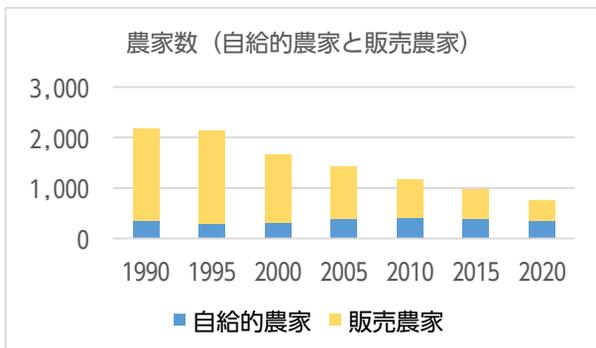
【 いなべ市 】



【 東員町 】

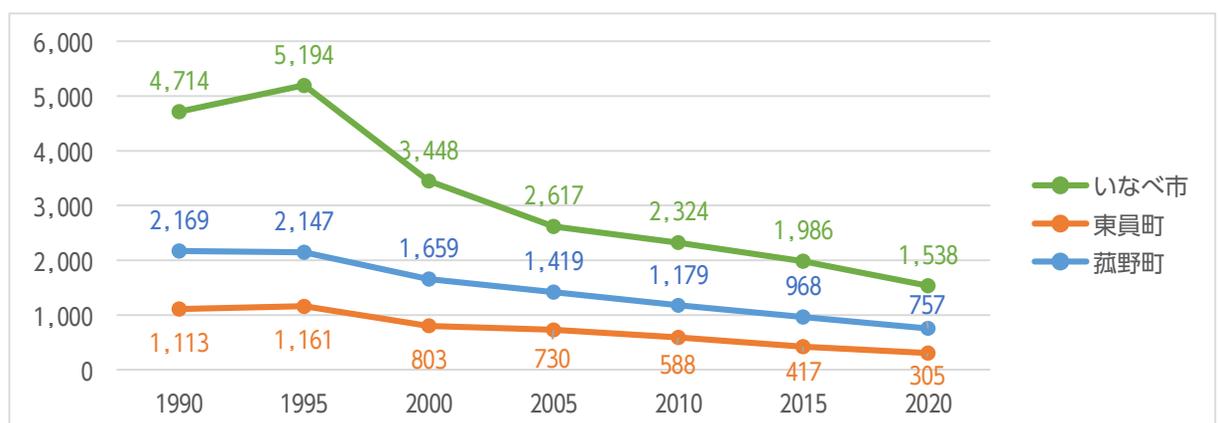


【 菰野町 】



※2020年は専業・兼業の調査がなくなったため、販売農家数を示しています。

【 総農家数 】



(イ) 第2次産業

【 いなべ市 】

[単位：所、人、億円]

年	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)
事業所数	203	191	176	178	177	172	165	179	177
従業者数	16,170	15,560	16,382	17,169	18,140	18,339	19,097	19,501	18,537
製造品出荷額等	9,426	11,258	11,790	11,057	13,220	14,160	15,020	17,227	16,628

【 東員町 】

[単位：所、人、億円]

年	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)
事業所数	90	81	80	79	84	84	78	84	90
従業者数	4,647	4,155	4,296	3,853	4,595	4,812	4,791	4,711	5,075
製造品出荷額等	1,318	1,446	1,478	1,541	1,435	1,553	1,674	1,712	1,480

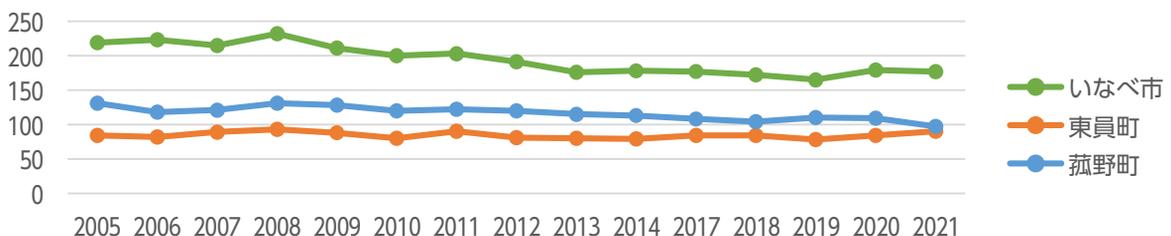
【 菰野町 】

[単位：所、人、億円]

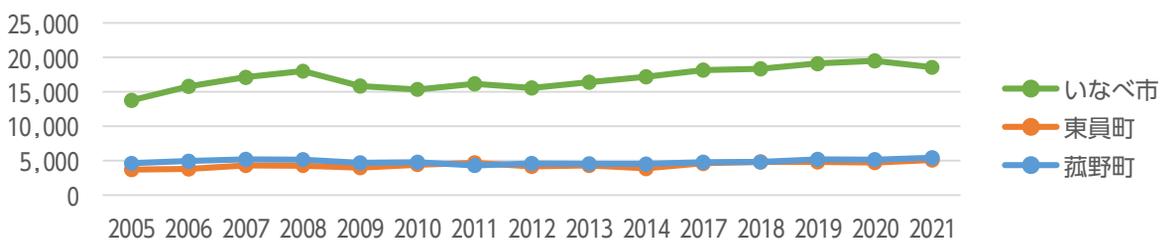
年	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)
事業所数	122	120	115	113	108	104	110	109	97
従業者数	4,280	4,557	4,523	4,500	4,741	4,774	5,154	5,116	5,390
製造品出荷額等	1,395	1,445	1,411	1,510	1,586	1,634	1,733	1,723	1,664

[出典：経済産業省（工業統計/R3～経済構造実態調査に統合）]

【 事業所数（単位：所） 】



【 従業者数（単位：人） 】



【 製造品出荷額等（単位：億円） 】



(ウ) 第3次産業

【 いなべ市 】

[単位：所、人、億円]

年	1991 (H3)	1994 (H6)	1997 (H9)	1999 (H11)	2002 (H14)	2004 (H16)	2007 (H19)	2014 (H26)	2016 (H28)	2021 (R3)
事業所数	624	631	562	513	447	419	397	336	330	324
従業者数	2,077	2,422	2,380	2,401	2,615	2,295	2,275	1,868	2,058	2,107
商品販売額	316	362	390	399	366	335	352	426	447	406

【 東員町 】

[単位：所、人、億円]

年	1991 (H3)	1994 (H6)	1997 (H9)	1999 (H11)	2002 (H14)	2004 (H16)	2007 (H19)	2014 (H26)	2016 (H28)	2021 (R3)
事業所数	175	186	193	208	192	184	171	175	210	192
従業者数	647	937	1,016	1,319	1,271	1,237	1,240	1,492	1,606	1,774
商品販売額	134	179	194	218	215	216	230	246	373	380

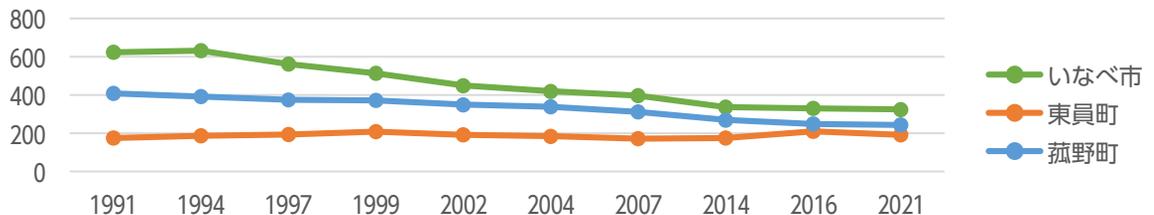
【 菰野町 】

[単位：所、人、億円]

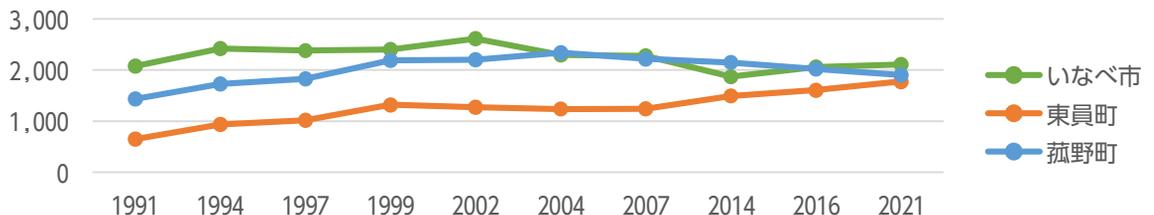
年	1991 (H3)	1994 (H6)	1997 (H9)	1999 (H11)	2002 (H14)	2004 (H16)	2007 (H19)	2014 (H26)	2016 (H28)	2021 (R3)
事業所数	408	391	374	371	349	338	312	269	248	243
従業者数	1,434	1,725	1,825	2,191	2,204	2,337	2,217	2,148	2,020	1,900
商品販売額	244	331	343	399	400	354	385	555	637	656

[出典：経済産業省（商業統計/H26～経済構造実態調査）]

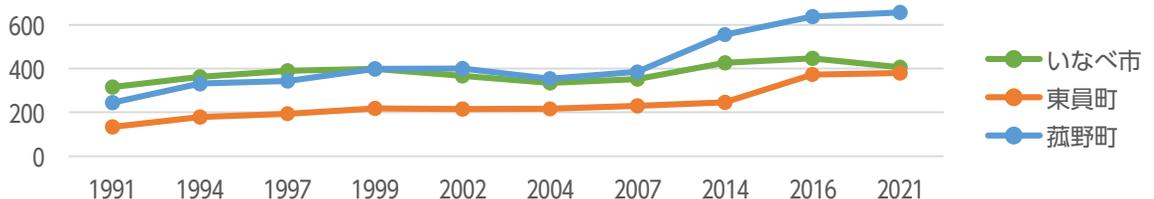
【 事業所数（単位：所） 】



【 従業者数（単位：人） 】



【 商品販売額（単位：億円） 】



第4章

定住自立圏の将来像

1 定住自立圏構想の目指すべき将来像

「定住」のための暮らしに必要な諸機能を確保するとともに、「自立」のための経済基盤や地域の誇りを培い、全体として魅力あふれる地域を形成していくことが定住自立圏構想の基本理念です。

この構想により目指す本圏域の姿は、“いつまでも住み続けたい”、“住んでみたい”、“訪れてみたい”と思える地域です。

そこには、豊かな自然があり、自然と共生できるゆとりある空間が創出され、充実した医療体制を始めとする安心・安全を支える生活機能が整っています。そこでは、障がいや疾病の有無にかかわらず子どもから高齢者まで誰もが生きがいをもち、誰一人取り残すことなく、全ての住民が質の高い生活を送り、いきいきと輝く笑顔が地域に満ち溢れています。

また、SDGsの推進及び促進により、経済・社会・環境の三側面における自律的好循環が形成され、圏域住民一人ひとりが認め合い支え合って暮らす、住民が主役のまちづくりが進められています。こうした互いを認め合う豊かな心が地域全体に醸成され、そこに住む人がその地を誇りに思い自信が持てる持続可能な地域となっています。

地域の誇りを共に感じるまち

2 圏域の将来人口目標

人口推移

[単位：人]

市・町	2000年 (平成12年)	2005年 (平成17年)	2010年 (平成22年)	2015年 (平成27年)	2020年 (令和2年)
いなべ市	45,630	46,446	45,684	45,815	44,608
東員町	26,305	25,897	25,661	25,344	25,860
菰野町	35,117	37,942	39,727	40,034	40,245
合計	107,052	110,263	111,005	110,368	110,713

[出典：総務省統計局（国勢調査）]

[単位：人]

市・町	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)	2023年 (令和5年)	2024年 (令和6年)
いなべ市	45,602	45,250	44,763	44,691	44,656
東員町	25,931	25,957	25,838	25,879	25,810
菰野町	41,610	41,670	41,476	41,189	40,931
合計	113,143	112,877	112,077	111,759	111,397

[出典：住民基本台帳（※基準日：いなべ市4月1日、東員町・菰野町3月31日）]

人口推計

[単位：人]

市・町	2020年 (令和2年)	2025年 (令和7年)	2030年 (令和12年)	2035年 (令和17年)	2040年 (令和22年)
いなべ市	44,973	43,768	42,547	41,159	39,575
東員町	25,784	26,121	25,369	24,393	23,223
菰野町	40,341	40,154	39,726	39,153	38,473
合計	111,316	109,116	106,811	103,883	100,471

[出典：各市町人口ビジョン]

老年人口推計

[単位：人]

市・町	2020年 (令和2年)	2025年 (令和7年)	2030年 (令和12年)	2035年 (令和17年)	2040年 (令和22年)
いなべ市	12,345	12,506	12,810	13,040	13,487
東員町	8,011	8,307	8,185	7,803	7,727
菰野町	10,726	10,965	11,374	12,008	12,982
合計	31,082	31,778	32,369	32,851	34,196

[出典：国立社会保障・人口問題研究所]

若年女性人口推計（20歳から39歳まで）

[単位：人]

市・町	2020年 (令和2年)	2025年 (令和7年)	2030年 (令和12年)	2035年 (令和17年)	2040年 (令和22年)
いなべ市	4,388	4,130	3,873	3,614	3,399
東員町	2,500	2,280	2,101	1,993	1,977
菰野町	4,084	3,755	3,665	3,714	3,601
合計	10,972	10,165	9,639	9,321	8,977

[出典：国立社会保障・人口問題研究所]

国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計等にもあるように、本圏域においても、今後急速な人口減少と高齢化の進行が予測されます。このような状況を踏まえ、1市2町が互いに連携・協力することにより、安心して暮らせる圏域を形成し、圏域から都市への人口の流出をくい止めるとともに、圏域への人の流れを創出していかなければなりません。従いまして、本共生ビジョンにおいても、引き続き第4章の1項でお示しした圏域の将来像の実現に向けた取り組みを推進しています。

そこで、これらの取り組みにより、本共生ビジョンの最終年度である2029年（令和11年）の圏域の将来人口目標を、国勢調査及び両市町の人口ビジョン等を踏まえ、概ね109,000人とします。

いなべ市	43,000人	東員町	26,000人	菰野町	40,000人
圏域目標人口 109,000人					

3 圏域の可能性

人口定住に向けた取り組みを進めていくうえで、本圏域のポテンシャルを最大限に活かしていく必要があります。

(1) 東海圏と関西圏が交わる東西の玄関口

本圏域は、名古屋市を中心部から約30kmの距離にあり、西は滋賀県、北は岐阜県と接し、東海圏と関西圏の結節点に位置しています。国道421号石樽トンネルの開通、東海環状自動車道の西回りの全線開通により、この玄関口としての機能がさらに高まり、「企業活動」や「観光」における経済面のポテンシャルが期待されます。

東海財務局の「東海環状自動車道に関する経済レポート」（令和6年）によれば、東海環状道の全線開通に伴い、東海地域内のアクセスが大幅に向上し、輸送時間の短縮で物流コストが削減され、新たな価値の創造に繋がるとされています。また、波及的な効果として、企業の商圏が拡大するだけでなく、企業活動の活発化、企業誘致の促進、雇用促進、災害対応に寄与などにつながることで、持続可能な圏域が形成されます。

道路ネットワークにより圏域単位での交流や大都市圏との結びつきが強化されることは、企業活動分野だけでなく、観光・交流分野における発展も期待されます。「スローライフ」に象徴されるように、自然の中で心豊かに過ごしたい人が増えています。

いなべ市農業公園、東員町中部公園、菰野町湯の山温泉など自然豊かな地域資源を数多く有する本圏域は、観光・交流分野のポテンシャルも高いといえます。

(2) 豊かな自然と良好な住環境による暮らしやすさ

名古屋市の中心部から約30kmの距離にあるにも関わらず、豊かな自然環境と大都市と比較して良好な住環境が、圏域住民に生活の豊かさを感じさせています。健康志向やワークライフバランスの進展と相まって、持続可能な圏域づくりのための定住促進のポテンシャルが高まります。

(3) さまざまな主体による住民が主役のまちづくり

本圏域ではコミュニティ組織をはじめNPOなど多様な主体が、積極的に地域づくりに参画し、住民一人ひとりが主役となった住み続けられるまちづくりが進められています。近年低下傾向にあるとはいえ、助け合い・支え合いが地域にしっかり根付いています。一人ひとりが認め合い、支え合って暮らしていける圏域は、いつまでも安心して、いきいきと暮らせ、そこに住む人が地域を誇りと思える“地域の誇りを共に感じるまち”として発展していくポテンシャルをもっています。